

# 北海道における乾草・サイレージ給与方式 とヘイレージ給与方式に関する調査報告

北海道家畜管理研究会長 広瀬可恒

## 序

北海道における酪農は、国民所得の向上にともなう牛乳、乳製品の需要の増大を背景として、草地開発事業、加工原料乳不足払制度など、一連の酪農振興施策の強化により、極めて順調な拡大発展をみており、特に道東、道北の主要酪農地帯では、経営規模の拡大の進捗は極めて顕著である。しかしながら酪農をとりまく諸情勢の変化には、楽観をゆるさないものがあり、今後の酪農の発展には、一層の生産性の向上による国際競争力の培養が望まれる。なかんづく多頭化にともなう自給飼料の量的、質的な確保と、飼料生産ならびに飼養管理をめぐる労働生産性の向上とが、最も大きな焦点となろう。

本道における大型酪農経営の類型では、草地主体の自給飼料生産体系であり、畜牛に対する冬期間の飼養は、乾草とサイレージの2本建て技術体系が組み立てられている。

この場合乾草の調製収納とサイレージ調製貯蔵と、2通りの機械ならびに収納施設設備が必要で、かつ給飼作業も2様となる処に問題点を抱いている。これが対策として、近年気密型サイロが開発せられ、乾草とサイレージの中間的性質をもつヘイレージの調製利用が紹介されるに及び、道内の大規模経営牧場において、気密型サイロが一部導入されつつあり、ヘイレージ一本の飼料調製、ならびに飼養の技術体系に対する関心が急速に高まりつつある。

この様な情勢のもとに、一昨年北海道開発局においては、気密型サイロを装備したヘイレージ給与方式が、慣行の乾草、サイレージ給与方式と比較して、果してメリットが期待せられ得るか、技術的、経済的両面からの調査検討を本研究会に委託せられた。そこで本会は会員の中より、それぞれの専門家を委嘱して、下記の様な研究班を組織し、道内の大規模育成牧場の中から、その採用しているサイロ型式から6牧場を選定し、2カ年にわたって現地調査ならびに数次の総合研究討議を重ね、その結果を取り纏め、茲に報告する次第である。

本調査の遂行に当たり、種々御便宜の御供与を賜った各調査対象牧場長および場員各位、ならびに終始御苦勞を煩はした調査担当委員の各位に、深く謝意を呈する。

## 記

調査対象牧場	サイロ型式	調査担当者
上川生産農協連白金共同利用模範牧場 農林省日高種畜牧場 北海道襟裳肉牛牧場	ハーベストアー セラミックブロック 塔型サイロ バンカーサイロ	第1班 遠藤清司(1) 高野信雄(2) 広瀬可恒(3) 岡村俊民(4)
十勝中部大規模草地乳牛育成牧場 釧路主畜農協連大楽毛畜産センター 訓子府町営訓子府共同利用模範牧場	バンカーサイロ ビニールシート バキュームサイロ ハーベストアー	第2班 平間英夫(1) 吉田則人(2) 鈴木省三、橋爪徳三(3) 高畑英彦(4)

## 備考

- (1) 各種サイロの型式と給飼施設別経済性および作業能率の比較。
- (2) サイロ型式とサイレージ品質、栄養価、乾物回収率ならびに乾草調製時における乾物回収率。
- (3) 乾草・サイレージ給与方式とヘイレージ給与方式の養分摂取量と補助飼料の必要性。
- (4) 機械利用実態ならびに経済性の比較。